

WITSA ウェビナー「世界貿易体制のこれから」（3月13日）開催

3月13日、JISA が加盟している WITSA（世界イノベーション・テクノロジーサービス連盟・事務局アメリカ）は「世界貿易体制のこれから」と題したウェビナーを開催しました。なお、ウェビナーは以下リンクでレコーディングを公開しています。ご関心のある方は直接視聴してください。

<https://www.witsa.org/webinars/whats-next-for-the-world-trading-system>

ウェビナーの概要は以下の通りです。

ドナルド・トランプ前大統領による度重なる貿易措置や貿易政策の発表は、国内外に衝撃と混乱をもたらし、停滞を引き起こしています。アメリカの貿易相手国は、それぞれ独自に、米国との直接交渉によって場当たりの二国間解決策を見出せないか模索しつつ、代替的な貿易枠組みの構築や自給自足体制の強化によって経済的安全を確保しようとしています。現在、世界の貿易体制は大きな混乱期にあります。商業的な対立は、直接的なコストだけでなく、失われた機会という形でも代償を生むでしょう。貿易のためのグローバルな秩序をどう構築すべきかという問題は、いまだに十分に議論されていません。世界貿易機関（WTO）のルールの下で、毎日 800 億ドルを超えるモノとサービスの取引が行われていますが、最近のアメリカの行動によって、その国際貿易体制の根幹は無効になったのでしょうか。

この Webiner では、ピーターソン国際経済研究所（PIIE）上級研究員のアラン・W・ウォルフ氏が、貿易交渉の歴史的背景を解説し、ルールに基づく貿易体制の重要性を強調しました。同氏は、WTO 加盟国に対し、「やる気のある国々による複数国間協定（プルリラテラル協定）」の活用を提案し、協力体制の強化を呼びかけました。さらに、WTO 事務局長によるより強力なリーダーシップの必要性を訴え、現在の WTO が直面する世界的課題への対応力の欠如を批判しました。ウォルフ氏は、非公式な場でも各国が課題に取り組むことは可能だとしつつも、WTO 内部での正式な認識が不足しているために前進が阻まれていると指摘しました。また、将来の課題に備えるた

めには戦略的な先見性が不可欠であるとし、過去のそのような取り組みも紹介しました。

議論はさらに、国際貿易政策におけるアメリカとインドの影響力にも及びました。ウォルフ氏は、アメリカの貿易における世界輸出のシェアが低下している現状を挙げ、各国がアメリカの主導に頼らず、独自に二国間協定を結んでいくべきだと提案しました。また、国際社会がこの変化に対応する速度が遅れていることに懸念を示し、貿易交渉の実務については、競争優位性のある分野に焦点を当てるべきだと主張しました。

CES の主催者でもある米国の消費者技術協会（CTA）国際貿易担当 Vice President であり、WITSA 公共政策委員長でもあるエドワード・ブリズトワ氏は、互恵的な関税交渉の複雑さについて言及し、より簡素化されたアプローチの必要性を指摘しました。

最後に、WTO の今後の役割と、各国が WTO の枠組み内外で貿易推進のために連携する可能性について議論が行われました。ウォルフ氏は、現在の課題に対処し、国際貿易体制の分裂を防ぐため、WTO 内での正式な交渉の開始を提言しました。一方、ブリズトワ氏は、一部の国がこの変化の過程を政治的に利用していることに懸念を示しました。今回のセッションでは、国際協調の必要性和、現行の貿易体制を修正・維持しつつ、ルールに基づいた国際貿易を推進することの重要性が改めて確認されました。

以上